

全労金2021春季生活闘争ニュース・第12号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

本日は全国統一の一斉職場集会開催日です！
東日本大震災の発生から10年目を迎えますが、
私たちは3.11を忘れることなく伝え続けていきましょう！

◎東日本大震災の被害の実相と現状を知ろう。

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0・最大震度7を観測し、東北地方から関東地方までの広範囲にわたって大きな揺れが観測された他、津波により同地域の海岸地域に甚大な被害をもたらしました。この震災による被害は、死者15,899人、行方不明2,526人となっています（警察庁公表・2021年3月1日時点）。また、避難者は、10年が経過した今でも47都道府県928市町村41,241人に上っています（復興庁公表・2021年2月26日時点）。宮城県や岩手県では、高台移転による宅地の造成や災害公営住宅の建設、自主再建により、2020年度末までに仮設住宅生活の解消を進めている他、介護サポート拠点や生活支援相談員の配置等による見守りにより、被災者の孤立の防止や心身のケアを図ることとあわせて、生きがいくりのため「心の復興」に取り組んでいます。

福島県では、東日本大震災の津波により電源を失った東京電力福島第一原子力発電所において、冷却用機器の運転不能により原子炉1～3号機が炉心溶融（メルトダウン）を起こし、1・3・4号機建屋で水素爆発を発生させる事故が発生しました。原発事故としては世界最悪レベルと言われるこの事故で放出された放射線により、原子力発電所を中心とした半径3km圏内の住民には避難指示が出され、20～30km圏内の住民には屋内退避指示が出されました。避難を強いられた被災者の中には、10年を経過した今もお、元の自宅での生活を取り戻すことができない方々が大勢いるとされています。

◎全労金組織による支援の取り組みを振り返ろう。

全労金は、東日本大震災発生直後から10年間、多くの組合員の協力の下で様々な支援の取り組みを展開してきました。その中には、現在も継続して展開している取り組みもあります。時間の経過とともに懸念される「震災被害の風化」を防ぎ、次の世代に引き継いでいくためにも、全労金組織による支援の取り組みを振り返り、今後の被災地の復興・再生に向けた取り組みとして、自分たちに何ができるのか、みんなで考える機会としましょう。

① 労使共同カンパと物資支援

全労金と労金協会が労使共同の取り組みとして、2011年3月15日から取り組みました。カンパの目安として、組合員・職員は一人あたり2,000円、管理職は5,000円、金庫役員は10,000円以上で設定し、全体で49,474,966円の集約となりました。また、物資支援は、全労金単独で1回、労使共同で2回実施し、東北労金へ物資を届けました。

② 東北労金の業務支援への人的派遣

東北労金の業務支援のため、労使共同の支援策の1つとして人的派遣を実施しました。派遣は、第1次（2011年4月18～28日）から第12次（9月26日～10月7日）まで継続して実施しました。

③ 連合救援ボランティア

連合救援ボランティア第4陣（2011年4月24日）から派遣を開始し、連合救援ボランティアが終了する第20次（9月18～24日）まで、延べ64名を全国から派遣し、被災地・被災者に寄り添った活動に取り組みました。

④ 福島除染ボランティア

福島市社会福祉協議会「除染ボランティア」に、第1次～第20次（2011年10月29日～12月11日）まで延べ47名が参加しました。福島県福島市大波地区の大波小学校や病院の敷地内、個人宅を中心に、個人宅の庭等の表土剥ぎ、土のう詰めや埋め戻し、落ち葉拾いや清掃作業を行いました。

⑤ 全労金復興支援・福島応援セット

福島は農産物を中心とした風評被害の影響が大きく、長期の支援が必要である実態を踏まえ、連合構成組織である全国農団労に加盟している「会津よつば農協労組いい支部（※当時は、会津いいで農協労組）」と連携し、「福島応援セット（福島県産物）」に取り組みました。第1弾（2011年12月）から開始し、直近では第11弾（2021年2月）まで継続して取り組んでいます。

⑥ 南相馬ボランティア

「南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター（福島県）」と連携し、2013年10月から2016年11月まで、延べ238名の参加で取り組みました。具体的な活動は、福島県南相馬市小高区を中心に、市民の方々からの依頼に基づき、草刈、家電・家具等の搬出、土のう運搬、ゴミ分別・搬出等に取り組みました。

◎全労金は第9回中央執行委員会（第2回中央闘争委員会）・闘争委員長会議で被災者へ黙祷を捧げました。

全労金は、3月10日に開催した第9回中央執行委員会、及び、本日開催した闘争委員長会議にて、東日本大震災の被災者に思いを馳せ、黙祷を捧げました。あわせて、闘争委員長会議では、参加者全員がそれぞれメッセージを作成し、東北労組と被災地に向けてエールを送りました。



以上